

京都市立養正小学校学校ニュース 学校評価 平成27年11月6日

校長 杉森 徳行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp
学校教育目標 「子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

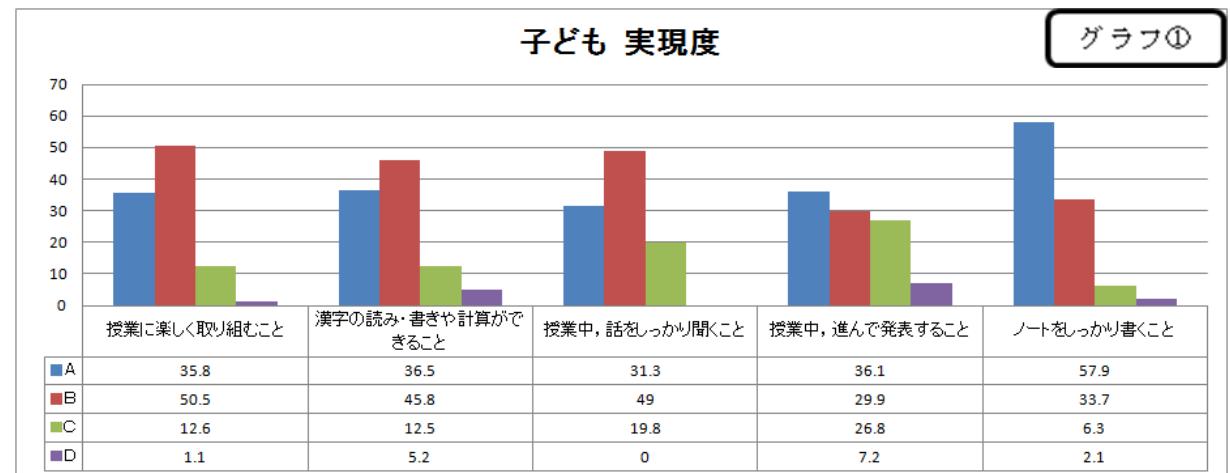
7月に、全校児童（低学年〈1, 2年〉、高学年〈3, 4, 5, 6年〉に分類）、保護者、教職員に学校の評価のアンケートをしました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと、生活習慣のことなど25項目、保護者、教職員には、子どもについて、学校について24項目について質問しました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

それぞれの項目について、重要度、実現度を回答してもらいました。（低学年児童は、実現度のみ）以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

重要度 A 重要である B やや重要である C あまり重要でない D 重要でない

実現度 A よく出来ている B 大体出来ている C あまり出来ていない D 出来ていない E わからない

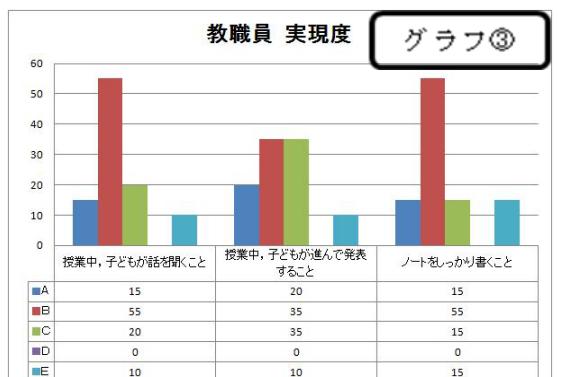
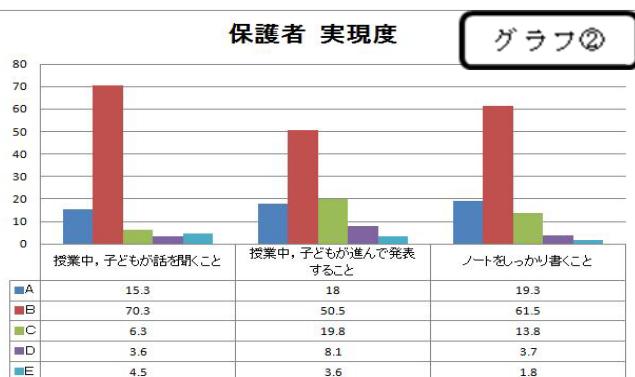
学習面について



養正小学校では、今年度も子どもの学力をつけるために、毎日の授業を大切にしてきました。学校生活の多くの時間が授業時間であり、充実した学校生活にするためには、子どもたち一人一人が毎時間の学習内容が「わかること」や学習集団の中で「活躍できること」が重要と考えています。授業では「話すこと」「聞くこと」「書くこと」など様々な学習活動がありますが、今年度も書くことを通して思考力や表現力を育てようとしています。そのために、各教科ではノート作りに力を入れています。子どもの実現度でも、「ノートをしっかり書くこと」の回答率は「よく出来ている」が57.9%、「出来ている」が33.7%であり、9割以上の子どもたちが、がんばって取り組んでいることを自覚していると言えます。

課題点の一つは、「授業中、進んで発表すること」の回答率が「あまり出来ていない」で26.8%と高い数値であったことです。書くことにとどまらず、書いて考えたことを学級のみんなに伝えることで思考に深まりがうれます。学習の楽しさとは、学級のみんなで考え深め合い、お互いを認め合うことでもあると思います。そのように考えると、「授業に楽しく取り組むこと」の学習意欲に関する項目は、表現力をつけることにともなって高まっていくことであると考えます。

課題点のもう一つが「授業中話をしっかり聞くこと」です。「よく出来ている」の回答率が31.3%と書くことや発表することにくらべて低いだけでなく、「あまり出来ていない」の回答率が19.8%と高かったことです。「あまりできていない」の回答率が26.8%の「発表すること」は、学級全体の場で発言することを苦手とする子どももいると考えられますし、学習形態の工夫によって少しずつ身につければよい力かと考えます。しかし、「話をしっかり聞くこと」は学習の基本であり、全員が出来なければならないことです。保護者の実現度では、「授業中、子どもが話を聞くこと」は、「あまり出来ていない」6.3%、「出来ていない」3.6%と比較的高くなく、教職員の実現度では、「あまり出来ていない」が20%であり、保護者とは、10%の差があります。それは、教職員の子どもに対する期待度が高いことや保護者は授業参観での様子を手がかりとして回答していることが考えられます。保護者の皆様には、参観の様子だけでなく、普段の生活の中でも、子どもたちが人の話を聞くことが出来ているかということに注意して観察し、必要な場合は声をかけていただけたらと思います。教職員は、子どもたちが集中して話を聞くための環境づくりや子どもたちが「わかる」授業の工夫を展開できるように一層の努力が必要であると考えます。



家庭学習などの学習について

右の棒グラフは授業以外の学習についての子どもの実現度のアンケート結果です。自学ノートに続けて取り組むことが「出来ている」「大体出来ている」と回答した子どもたちが約9割でした。これまで、自学ノートに提出自由と捉えていた子どもたちもいたようですが、自学自習が定着してきたと言えます。今後は、子どもたちが自分の課題にあったよりよい自学が出来るようにしていきたいと考えています。現在1階の廊下に自学ノートのコピーを提示するなどし、自学のモデルを提示しています。月1回のにこにこ集会などを利用し、より一層の充実を図りたいと考えています。

子ども 実現度 グラフ④

項目	A	B	C	D
読書に進んで取り組むこと	50.5	20.4	21.5	7.5
毎日、宿題をすること	61.7	25.5	4.3	8.5
自学ノート(自学自習)に続けて取り組むこと	61.7	28.7	6.4	3.2

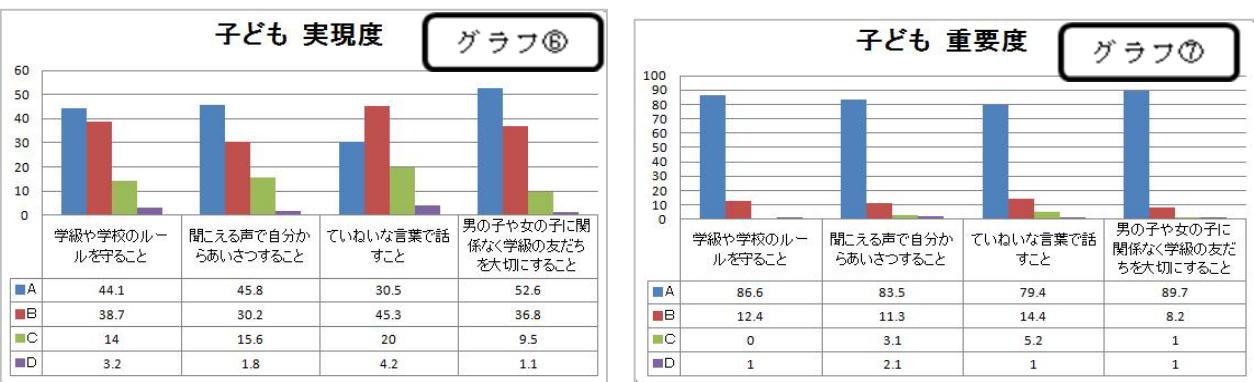
一方、子どもが「毎日宿題をする」の回答率で「出来ていない」8.5%、「あまり出来ていない」4.3%が気になります。保護者の実現度の回答にも「家庭で学習すること」を「あまり出来ていない」26.1%、「出来ていない」3.6%でした。実現度の子どもとの差は期待値も含まれると思います。しかし、保護者の重要度の回答率で「あまり重要でない」の回答率が3.6%、「やや重要である」が27.0%でした。家庭学習は重要です。学校では、基礎基本の定着を図るためにステップアップ学習、ベースックタイム、土曜学習などの取組がありますが、それだけでは十分ではありません。家庭でも子どもの学習課題を知り、お家の方と一緒に取り組むことが学習への意欲にもつながります。また、自分の意思で学習に取り組めるように習慣づけていくことも大切です。家庭学習は15分×学年または、20分×学年とも言われています。「宿題できたか。」「宿題しなさい。」といった一方的な声かけだけになっていないでしょうか。家庭学習があまりできていないと感じられる場合、学習に対して話をする時間をもち、子どもと一緒に学習の目標を設定してみてはどうでしょうか。

「読書に進んで取り組むこと」に関しては、学校では年3回読書週間を設けたり、朝学習の時間を読書にあてたりと様々な取組をしていますが、約3割の子どもは、あまり読書が出来ていないうえです。保護者でも「出来ていない」「あまり出来ていない」の回答率が4割と、読書を重要なことと考えながらも、実現度としては課題が残ります。読書が好きでない子どもは固定しているように思います。そのような子どもたちに読む習慣を身につけるためには、家庭学習と同様、読書の目標を設定し取り組んでいくことが大切です。まずは、休みの日に子どもと一緒に図書館へ出かけてみてはどうでしょうか。

生活面について

右は、保護者の実現度を表したグラフです。保護者は、「進んであいさつすること」や「ていねいな言葉で話すこと」に課題を感じていることがわかります。これは、教職員も同じで、約5割が「あまり出来ていない」「出来ていない。」と回答しています。実際に、朝、子どもたちが登校してくる様子を見ていると、聞こえる声であいさつができる子どもが少ないと感じます。それでは、子どもたちは、自分たちのあいさつや言葉づかいに対してどのように感じているのでしょうか。

グラフ⑥から、子どもたちも「聞こえる声であいさつすること」を「あまり出来ていない」15.6%、「出来ていない」1.8%、また「ていねいな言葉で話すこと」を「あまり出来ていない」20%、「出来ていない」4.2%と回答し、課題であることを自覚していると言えます。しかし、重要度を見ると、子どもたちが、「あいさつ」や「ことばづかい」を大切な事と思っていることが分かります。「聞こえる声であいさつすること」を「重要である」「やや重要である」の子どもの回答率は、9割以上であり、「ていねいな言葉で話すこと」も8割を超えています。子どもたちは、大切であると思うが実行することが出来ていないと言えます。これは、「学校や学級のルールを守ること」



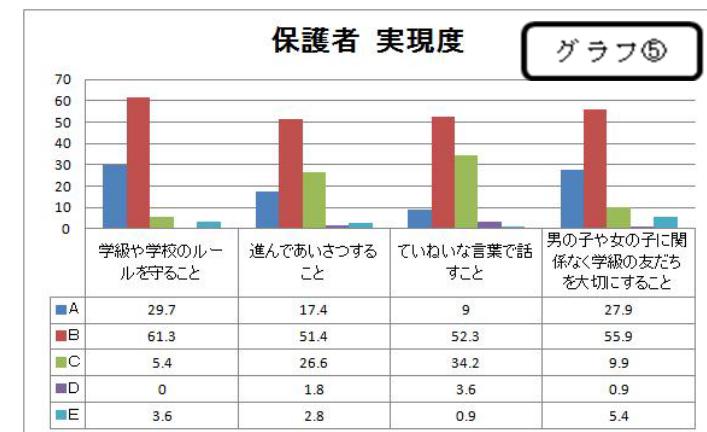
でも同じことが言えます。ルール、あいさつ、言葉づかいは、すべて他者とのかかわりに関することです。他者とのかかわりに関する場合、大切であると思っていても、恥ずかしいと感じるなど、実行することに少しのハードルがあると言えます。どんな場面であっても、素直な自分を表現できるようになってほしいと思います。しかし、「学級の友だちを大切にすること」の「あまり出来ていない」の9.5%、「出来ていない」の1.1%は0%であってほしいところです。自分の気持ちが満たされているときに、他者への思いやりをもつことができることが多分にあるのではないうえです。学習や学校行事などを通して、子どもたち一人一人が活躍し、友だちや先生から認められることで自尊感情が育ち、友だちを大切にできると考えています。今後も学習や学校行事を大切にし、子どもたちを育てていきたいと思っています。

その他

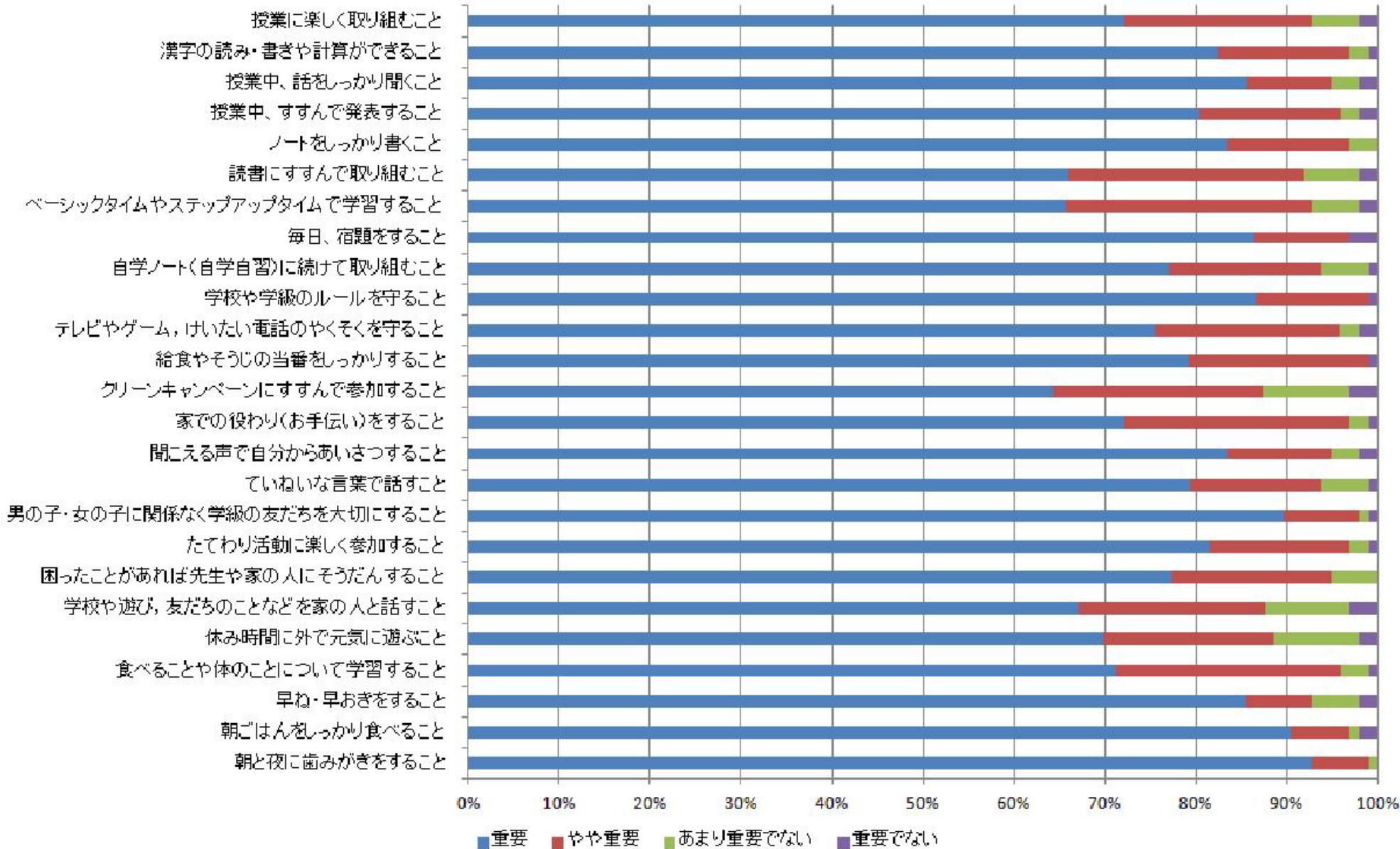
今回、子どもたちのアンケートに生活習慣のことについての質問を増やしました。内容は次の通りです。「休み時間に外で元気に遊ぶこと」「食べることや体のことについて学習すること」「早ね・早起きすること」「朝ごはんをしっかり食べること」「朝と夜に歯みがきをすること」。これは、生活習慣と学習には大きな関係があると考え、今年度、これまで以上に健康教育の取組を大切にしているからです。今回は、結果についての考察は掲載していませんが、後期は前期と比較しながら考察したいと考えています。ただ、今回、生活習慣と学習意欲の相関関係を調べたところ、その関係は見られませんでした。また、携帯電話やゲームの約束と宿題、携帯電話やゲームの約束と学習意欲に関しても同じように大きな関係は見られませんでした。これは、学習を「出来ている」というのは、自己評価であることが1つの原因として考えられます。もし、携帯電話やゲームの時間を守ることができていると、今以上に学習が出来るかもしれませんし、がんばれるかもしれません。様々な調査から携帯電話やゲームの時間と学力に相関関係があるのは明らかです。今回のアンケート結果がすべてではなく、アンケート結果をもとに子どもと話し合い、よりよい成長につながればよいかと考えます。

学校運営協議会から

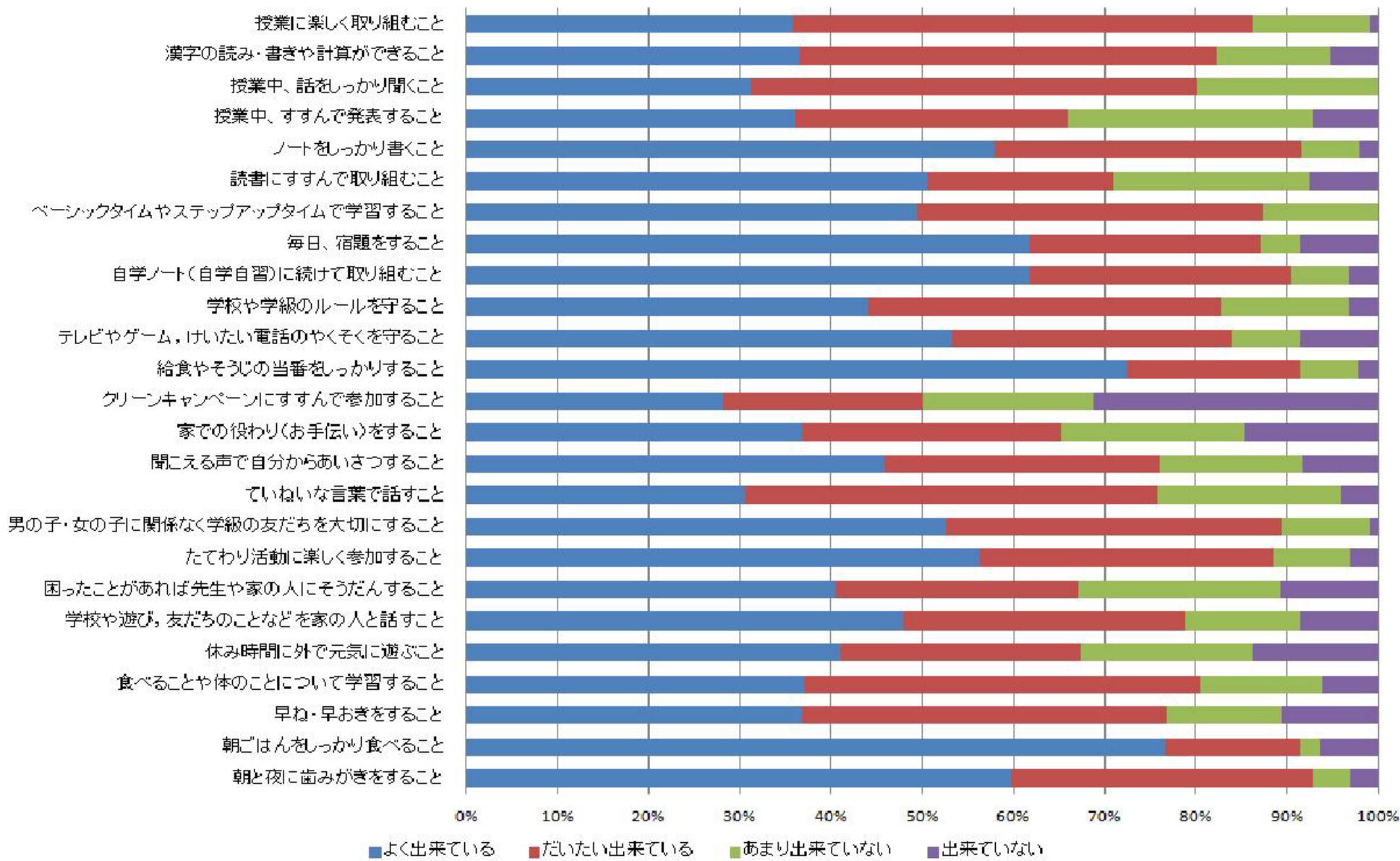
学校運営協議会では、家庭学習やあいさつなど、課題であると考えられていることに対しての取組について話し合われました。特に、読書活動は、ゲームやスマートフォンの普及により、本が好きでない子にとって、本を読むことがますます難しい環境になっている。理事の方から学校は、朝の10分間読書や年間3回の読書週間の取組以外にも、本が好きでない子への働きかけも考えていかなければならぬという意見をいただきました。



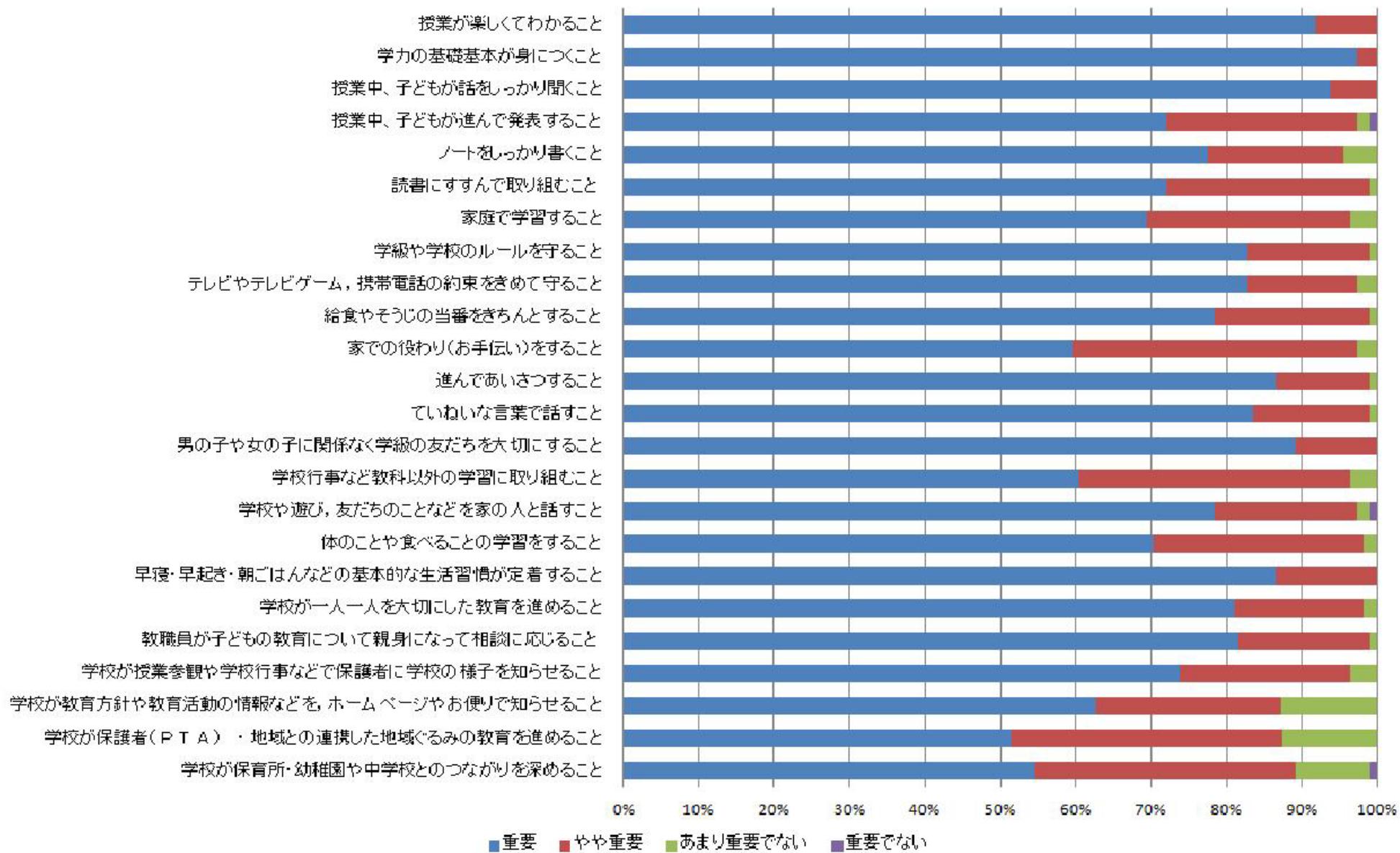
前期 子ども 重要度



前期 子ども 実現度



前期 保護者 重要度



前期 保護者 実現度

